

- 問1 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、周囲を深い堀や土塁で囲んだ大規模な環濠集落である。このような集落が造られた当時の社会背景を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
- 大陸から仏教が伝来し、その寺院を保護するために宗教的な儀礼として堀を巡らせる必要があった。
 - 稲作によって収穫物の蓄えや土地・水をめぐり争いが集落間で発生したため、外敵から守る必要があった。
 - 氷河期が終わり海面の上昇が激しくなったため、集落が水没しないよう高い防波堤を築く必要があった。
 - ナウマン象などの大型の獲物を効率よく捕獲するための罠として、村の周囲に深い溝を掘る必要があった。
- 問2 弥生時代、稲作の普及によって余剰生産物が生まれると、富を蓄えた有力者が現れ、各地に小規模な政治集団である「国」が形成されました。当時の倭（日本）の有力な王は、中国の王朝から自らの地位を正式に認められることで、周辺諸国に対する権威を高めようとしてしました。西暦57年に、倭の「奴国」の王が中国の後漢の皇帝から授かった、その地位を証明するための品物として正しいものを選びなさい。 (2018年 神奈川県公立入試 類似)
- 「漢委奴国王」と刻まれた金印
 - 三角縁神獣鏡
 - 稲荷山古墳から出土した鉄剣
 - 仏像や経典
- 問3 縄文時代末期に大陸から北九州地方へ稲作が伝来したことにより、その後の社会の仕組みはどのように変化しましたか。最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 奈良県公立入試 類似)
- 全国で狩猟や採集が完全に行われなくなり、全ての集落が移動をしない定住生活を同時に開始した。
 - 米を貨幣として使用する制度がすぐに確立し、中央集権的な国家が全国に一斉に誕生した。
 - 大陸との交易が独占されたため、各地の集落が独立したまま争いのない平和な時代が続いた。
 - 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐり争いが生じるようになった。
- 問4 弥生時代から古墳時代にかけての日本列島において、当時の人々が衣服を仕立てる際に主な原料として用いていたものの組み合わせとして、正しいものを選びなさい。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
- 綿（木綿）と麻
 - 絹と羊毛
 - 麻と絹
 - 綿（木綿）と絹
- 問5 3世紀前半の倭（日本）について記した中国の歴史書である「魏志倭人伝」には、多くの小国を従えた強力な勢力の存在が記されています。この勢力の名称と、周辺の小国を連合させて治めていたとされる女王の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
- 奴国 — 持統天皇
 - 邪馬台国 — 推古天皇
 - 奴国 — 卑弥呼
 - 邪馬台国 — 卑弥呼
- 問6 弥生時代には大陸から青銅器と鉄器の技術が伝わりました。鉄が主に武器や工具として利用されたのに対し、青銅器である銅鐸は、時代が進むにつれて大型化していきました。このような変化を遂げた銅鐸は、当時どのような目的で使われていたと考えられていますか。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
- 大陸との交易において価値の基準となる貨幣
 - 豊作などを願うための祭祀の道具
 - 稲を効率よく刈り取るための実用的な工具
 - 集落を外敵から守るための鋭利な武器
- 問7 弥生時代の稲作の普及に伴って変化した人々の生活や道具について述べたものとして、正しいものはどれか。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
- 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。
 - 稲作を管理するために、強力な権力を持つ支配者が各地に巨大な前方後円墳を築かせた。
 - 人々は獲物を求めて移動生活を続け、土器は表面に縄目の文様がある厚手で大まかな作りのものが主流となった。
 - 金属器はまだ伝わっていなかったため、すべて木製の農具と黒曜石の打製石器のみで耕作が行われた。
- 問8 弥生時代に製作された銅鐸や銅鏡などの青銅器について、その主な役割や目的として最も適切な説明はどれか。 (2026年 新潟県公立入試 類似)
- 稲作の豊穰などを願うための祭祀の道具として用いられた
 - 集落間の争いにおいて、敵を攻撃するための強力な武器として用いられた
 - 木材を加工したり土を掘り起こしたりするための実用的な工具として用いられた
 - 大陸との交易において、通貨の代わりとなる経済的な手段として用いられた
- 問9 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。 (2026年 新潟県公立入試 類似)
- 銅剣
 - 石包丁
 - 銅鐸
 - 銅鏡
- 問10 弥生時代に中国や朝鮮半島から伝わった鉄の利用について、当時の社会に与えた影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 奈良県公立入試 類似)
- ナウマンソウなどの大型の獣を捕らえるための、強力な打製石器の材料となった。
 - 須恵器と呼ばれる硬い土器を焼くために、窯の温度を上げる燃料として利用された。
 - 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。
 - 土偶の表面を細かく削り出すための彫刻用具として、全国で広く普及した。
- 問11 3世紀、邪馬台国の女王であった卑弥呼は、中国の王朝に使いを送り、その皇帝から「親魏倭王」という称号や金印、さらには多くの銅鏡を授けられたと記録されています。このとき、卑弥呼を倭の王として正式に認めた中国の王朝を選びなさい。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
- 唐
 - 秦
 - 隋
 - 魏
- 問12 弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用方法について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- 土を掘り返して苗を植えるために用いられた
 - 稲を根元から刈り取るために用いられた
 - 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた
 - 収穫した後の脱穀を行うために用いられた
- 問13 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。 (2026年 滋賀県公立入試 類似)
- 埴輪
 - 磨製石器
 - 鉄器
 - 青銅器